



広重版画より 三島 朝霧

第2416回例会

2025.4.3日

司会

柴崎恵子君

国歌斉唱

四つのテスト

ロータリーソング

「奉仕の理想」
指揮 栗原達治君

会長挨拶

会長 鈴木正二君

私は新聞を読むのが好きです。日経新聞、静岡新聞を読んでいます。中でも新聞小説が好きで、静岡新聞の「未だ本能寺にあり」はTVのコメンテーターにも出ている今村翔吾さんで、今日113回で信長は本当に本能寺で死んだのかという場面です。日経は4月1日から変わったばかりで「タイム・アフター・タイム」で久振りの現代もので楽しみです。日経の「私の履歴書」が大好きで、年12人50年でも600人しか選ばれません。自分なりに分類すると①大企業で頑張って成果を上げ昇りつめた人②官僚・学者・芸術畑等様々な分野で著名な人③創業者・二代目で時代に合わせ新技術・新企画で成功した人に分けられると思います。そんな中で④頑張ったんだと感激できる人⑤年齢が近くて同時代を歩んできた人は共感が強くすごいと尊敬してスクラップしています。時代的に団塊の世代、技術変革期であったこともあります。名前を挙げると1級上には野本弘文(東急会長)吉野彰(リチウムイオン電池開発者。ノーベル賞)辰野勇(モンベル創業者)同級生では稲葉善治(ファンック会長、創業者の長男)北岡伸一(東大名誉教授・政治学者)1級下では岡藤正広(伊藤忠会長)安部修仁(吉野家会長)東哲郎(東京エレクトロン元社長)浮川和宣(ジャストシステム創業者・一太郎)この3月はコロナ禍で大活躍した尾身茂さんで1級下でした。4月は平井一夫(ソニー元社長)さんで一回り下ですが楽しみです。履歴書の横にある文化欄も各地各種の文化を取り上げていて、気になるものを保存しています。読み捨てにしないでスクラップ作業をすることが自分にとって肥やしになっていると思ってやっています。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	35/46	73.91%	37/46	75.51%
今回	45/50	88.00%	会員総数	53名

欠席者 赤池君、須田君、諏訪部(行)君、諏訪部(照)君、西川君

スマイルボックス

- ◆鈴木(正)君、先週もお願いしましたが、4月20日(日)沼津市民文化センターで明治大学マンドリン倶楽部第46回定期演奏会を地元校友会で開催します。チケットをぜひお買い求めください。尚、パンフレットのスポンサーになってくれる方8名にはチケット2枚をお渡ししますが、次回パンフレットと一緒にお渡し集金する予定ですが、来週出席できない方には本日チケットをお渡ししますのでお声がけください。
- ◆木村君、4月1日付で長男裕(ひろし、45才)が会社に入りました。皆様よろしくお願ひします。
- ◆窪田君、4月7日から木工のロクロをやる女子が入社します。谷田木材も女子が増えて明るくなります。ありがたいことです。
- ◆古屋君、本日から通常会員としてよろしくお願ひ致します。
- ◆秋山君、長女が三島に戻ってきて三島で就職しました。お花屋さんです。お花のご用があたりましたらお声がけください。次女三女(双子)も無事希望の高校に受かり、来週から高校生になります。子供たちが幸せな人生を送れるようにオヤジはもうすしががんばります。

幹事報告

幹事 加藤憲勝君

- 1.本日の例会、卓話は秋山恭亮君です。よろしくお願ひします。
- 2.次回夜間例会は苗栗交換中学生の報告会です。



スマイルボックス

3月27日のスマイル

- ◆岩崎君、この度、転勤により三島西ロータリークラブを離れることとなりました。在籍させていただいた3年の間、皆さまにはご指導、ご鞭撻、あたたかいご厚情をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまでロータリー活動を通じ大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。転勤しても市内で生活しておりますので、どこかでお会いした際「おやあ！」とお声がけ頂ければ嬉しいです。皆さまのご健勝と三島西ロータリークラブのご発展を心より祈念しております。
- ◆勝保君、私の会社が運営する三島市本町のパーソナルトレーニングジムですが、おかげさまで、この春で9年目を迎えます。この節目に、新たに2名のスタッフを迎えることとなり、一層気を引き締めていきたいと思い、スマイルを送らせていただきます。つきましては宣伝で恐縮ですが、新規会員を絶賛募集中です！三島西ロータリーの皆さまやご家族・ご友人の方のために、特別に無料体験券をご用意いたしました。ゴルフの飛距離アップ、生活習慣病の予防、慢性的な腰痛・肩こりの改善など、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ勝保までお気軽にお声がけください！
- ◆鈴木(正)君、今年も明治大学マンドリン倶楽部、第46回定期演奏会が4月20日に沼津市民文化センターで開催されます。チケットは鈴木が持っていますので宜しくお願いします。机の上にチラシを置いてあります。
- ◆野田君、昨年3月から通い始めたフィットネスクラブの効果でしょうか。先日人間ドックで気になっていた血糖値が特に心配なしとのことで薬づけの循環器ながら、どあえずひと安心です。

卓 話

災害から命を守る

秋山恭亮君

今日は災害に備えるためにどのような対策が必要か、そして災害時どのような行動すべきかについてお話します。災害は突然やってくるもので、事前に準備していないとその時どうも対応できません。特に、慌てると冷静に対処できなくなり、より多くの困難に直面することになります。だからこそ、日頃から訓練を重ね、いざという時に備えておくことが非常に重要です。

1. 地震の被害の大きさ

地震は予測できない災害であり、その影響は非常に大きいものです。例えば、能登半島地震では、地震の揺れの強さ、耐震性の問題、そして道路ネットワークの寸断などが大きな問題となりました。特に、能登半島のような半島という立地条件では、ライフラインの停止や高齢化社会の影響、また、季節によっては暑さや寒さが避難生活に加わり、避難生活そのものが過酷なものになります。

さらに、地震による影響で直接的に命を落とすケース(例えば、家具や建物の下敷き)や、避難生活中に体調を崩して命を落とすケースもあります。また、過酷な避難生活が続く中では、栄養不足や体力低下が進み、感染症のリスクが高まります。

2. 災害被害の方程式

災害による被害は、次の方程式で説明されることがあります。

自然の外力 × 人口 × 社会の脆弱性、つまり、自然災害の強さ、災

害を受ける地域の人口、そしてその地域の社会的な脆弱性が影響を与えます。たとえば、降水量の増加や地震の頻発など、自然の外力は年々強まっています。実際、1時間に80mm以上の強い雨は、40年前の2倍に増えていると言われていています(気象庁)。また、近年では大規模な地震が頻発しています。1995年の阪神・淡路大震災から、2011年の東日本大震災、そして2024年の能登半島地震など、大きな地震が続いており、今後も同様の地震が発生する可能性があります。

3. 静岡県南海トラフ巨大地震の被害想定

たとえば、静岡県では南海トラフ巨大地震が発生すると、死者は10万9千人を超えるとされています。その内、9万5千人は津波によるものです。三島市や長泉町、清水町、函南町は津波による直接的な被害は少ないといわれていますので、ここにいるほとんどの方は建物倒壊や家具の下敷きに気を付けるべきだといえます。

4. 社会の脆弱性と高齢化社会

災害に対する脆弱性は、私たちの社会が直面している問題とも深く関係しています。例えば、過去100年間で日本の平均寿命は倍以上に伸びました。男性は41歳から81歳、女性は43歳から87歳と大きく伸びています。しかし、75歳以上の高齢者の人数は、過去25年間で2.6倍に増え、また、高齢者単身世帯は3.2倍に増加しています。さらに、75歳以上の3分の1が要介護や要支援状態にあります。これにより、災害時では自力で避難できない人々が多く、避難生活を送れない状況に陥る可能性が高くなっています。また、近所付き合いや自治体職員の数も減少しており、災害時には支援体制が十分に整わない恐れがあります。

5. 正常化の偏見と備えの重要性

「正常化の偏見」とは、異常な状況に直面しながらも「自分は大丈夫だろう」「たいしたことはないだろう」と思い込んでしまうことです。この考え方が災害時に危険を招きます。だからこそ、災害はいつ起こるかわからないということを意識し、早めに備えておく必要があります。家具の固定・窓ガラスの飛散防止・様々な備蓄・持ち出し袋の準備・避難行動の確認など…やらなくてはならないこと、やったほうが良いことたくさんありますが、いっぺんに全部整えるのは困難かと思えます。ですからまず、「家具の固定」や「家の中にセーフゾーンを作る」ことをやってください。地震が起こった時に、自分や家族がけがをしないこと、命を落とさないことが一番大事です。次に、「災害用トイレの備蓄」をしてください。1日5回×家族の人数×7日分のトイレを備蓄することを推奨します。

6. 近所とのつながり

災害時には、周囲の人々とのつながりが非常に大切です。2011年の東日本大震災では、誰か逃げるように伝えたか、誰が支援したかという調査で、最も多かったのは「家族・同居人」、次に「近所・友人」でした。つまり、近所や友人との関係を密にしておくことが、災害時に生き残るための大きな助けになります。仮に、自分がけがをしたり家具の下敷きになって動けなくなっても、近所の人が気が付いて助けてくれれば、生存確率は飛躍的に高まります。

7. まとめ

では、最後に今日お話ししたポイントを振り返りましょう。

- ①家具の固定や家の中にセーフゾーンを作ること
 - ②災害用トイレの備蓄(1日5回×家族人数×7日分)
 - ③三人の近所の人と密接なつながりを持つこと
- まずはこの3点に取り組んでください。防災はここまでやれば万全というゴールがありません。ですが、まずこの3点をやっていただければ、命を損なわない可能性が高まります。ご清聴ありがとうございました。

(週報担当:小塚英樹)